

編集後記

『女性学評論』は20号となった。女性学インスティテュートの誕生の経緯については、先輩たちの話をもれ聞く程度だが、当時と現在では何がどのように違うのだろうか。そして、40号を迎える頃、どうなっているのだろうか。未来に向けて何かを残すことができれば幸いである。(Y. M.)

このところ、世のなかは「勝ち組」だの「負け組」だのとさわがしく、ほんとうにイヤになります。そうした邪気を漂わせるような書きものも後を絶ちません。こういう時代だからこそ、人間を大切にあつかう紀要をつくりたいと思います。たとえ論証や客観性をめざす学術雑誌であっても、それくらいの心根をもつことはできるはずです。(K. N.)

「ハルモニさん講演会」における、「慰安婦」被害者イ・オクソンさんの証言は迫力に満ちたものでした。国家犯罪、民族差別、女性差別、公娼制、戦争責任の回避など、現にある問題の全体を分析するうえで、ジェンダー視角はどのような有効性と制約をもつのか。そこは社会科学にとっての重要な究明課題だと思います。(Y. I.)

今年度の特集は、「戦後60年・ポスト北京の10年」です。中味の濃い原稿が数多く寄せられましたことを、感謝いたします。また「ハルモニさん講演会」が実現でき、その記録をここに掲載できましたことを、たいへんうれしく思います。(T. T.)

.....